

電気と「はかる」計器の歴史を訪ねて…… 5

スミソニアンとの展示と コレクションの情報源

松本 栄寿

横河電機(株)

スミソニアン協会は14の博物館群から成るが、その主なるものはワシントンの中心地モール地区に集中している。科学系の博物館としては、国立自然史博物館、国立アメリカ歴史博物館、国立航空宇宙博物館がある。それぞれ素晴らしい展示があり、多数の日本人も訪れる。電気に関連する分野は、筆者の滞在したアメリカ歴史博物館の範囲に含まれる。その中で電気 (Electricity) と情報化時代 (Information Age) は恒久展示としてそれぞれ1,000 m²前後を占める。

ここでは電気の展示を説明しよう⁽¹⁾。入り口の「電気のホール」

(Hall of Electricity) には19世紀以前の静電気の時代の展示があり、ライデン瓶、摩擦起電器、人形を使ったキス・マシンなどが並んでいる。

「照明の革命」 (Lighting a Revolution) と題するコーナーは1876年のフィラデルフィア展のアーケ灯から始まるが、エジソンの発明のベースになった19世紀の時代の電池・モータ・発電機・電気計器などの状況、次にエジソンのメンロパーク時代の研究と白熱電球の発明の詳細な展示がある。白熱電球のさまざまな構造、1882年にニューヨークに設置された中央発電所と給電システム、使用された配電盤、電気

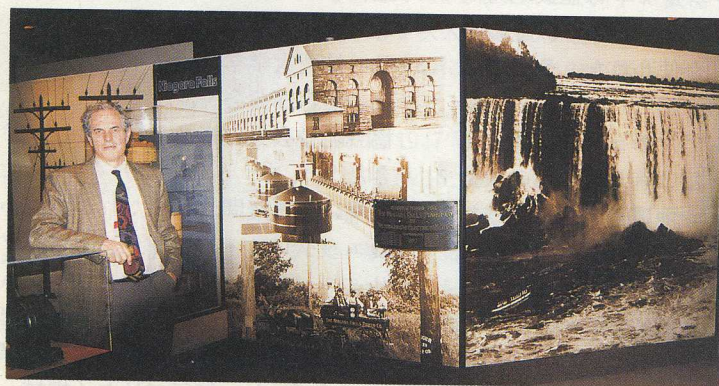
スミソニアン協会には幾つもの図書館・アーカイブスがあるが、この国立アメリカ歴史博物館の3階にもアーカイブスセンターがある。電気関係の古文書、デュモント・コレクション (テレビ)、ハンメル・コレクション (エジソン) などとも保管されており、研究者は展示ばかりでなく、資料を介して電気技術の歴史研究ができる⁽⁴⁾。

さて、アメリカ中に散らばっている電気のコレクション、特に個人や小規模の展示室を探すのに役立つ情報源が発行されている。「電気時代の記念物」と題する小冊子である。編集者のベルフィールド (Robert Belfield) は、ペンシルベニア大の学生で1974年夏にスミソニアンに滞在したおり、実習生のシュミット (John Schmitt) とともに着手した調査が基となっている。発案者はアメリカ歴史博物館のフィン博士で、費用はIEEE基金から支出された⁽⁵⁾。

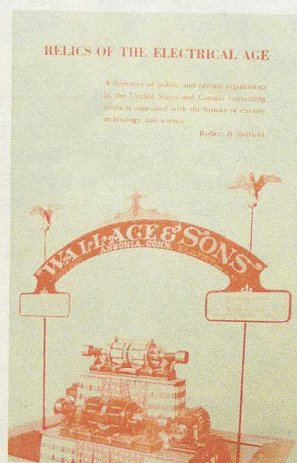
全米とカナダに存在する321のコレクションが紹介されている。アメリカには、電気のコレクションを持っている個人やアマチュアもたいへん多く、これは貴重な情報源である。次回からこの小冊子も利用して訪ね歩こう。

注

- (1) Official Guide to the National Museum of American History: Smithsonian Institution, pp. 40/43 (1990)
- (2) Bernard S. Finn, Robert Friedel, 他: Lighting A Revolution, Smithsonian Institution (1979) は電気展示の解説書
- (3) Robert Friedel, Paul Israel with Bernard S. Finn: Edison's Electric Light, Rutgers Univ. Press (1987) はエジソンの照明の研究書
- (4) What are Archives?: Archives Center NMAH, January (1993)
- (5) Robert B. Belfield: Relics of the Electrical Age, Division of Electricity, Smithsonian Institution (1977)



電気の展示、ナイアガラ発電所の風景とアメリカ歴史博物館の電気部門主任キュレータバーナード・S・フィン博士



電気歴史のコレクションの情報源 Relics of the Electrical Age

分解式の積算電力計なども展示されている。

さらに、エジソンにとっての競争者のさまざまな発明品と、なぜ交流が直流に打ち勝ったかの説明や、最後には1895年のナイアガラ水力発電所と電力の送電が新しい工業アルミ精錬を可能にし、都市と家庭への電気を供給したありさま、20世紀初頭の電気器具の展示がある⁽²⁾⁽³⁾。

これら展示は、アメリカの歴史が技術の進歩と切り離せないことを物語っているが、現物が目の前に展示されていることは観客を圧倒させるに十分である。